

1. 科目名 (単位数)	学校臨床心理学特論 (2単位)	3. 科目番号	PSMP6265
2. 授業担当教員	家近 早苗		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし	履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	学校教育を巡る状況はさまざまな問題を含んでいる。子ども達が学び育つ過程で生起する問題は、私たち大人に何を問いかけているのか、そして、臨床心理学が学校という場でどのような役割を果たし得るのか考究する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校環境における子どもの発達について考察し、学習の場に存在する諸問題について、原因とその対処法を指摘できる。 2. 学校環境における子どもの人間関係と支援者がどういう役割を担うことが可能かを考える。 3. 子どものウェルビーイングを考え、地域・学校・家庭における学校臨床のあり方を理解し、教育現場で実践できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校臨床に関する論文 2 本を読み、レジュメを作成する。事例研究を 1 本扱うことが望ましいが必須ではない。 2. 各自のテーマに沿って授業内で発表する。詳細は初回に告知する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 石隈利紀・家近早苗 2021 スクールカウンセリングのこれから 創元社</p> <p>【参考文献】 (学校臨床心理学の理論と実践) 石隈利紀 1999 学校心理学 誠信書房 水野治久・家近早苗・石隈利紀 2018 チーム学校での効果的な援助—学校心理学の最前線 ナカニシヤ出版 石隈利紀 2022 教育・学校心理学 遠見書房</p> <p>(思春期・青年期の課題) 斎藤憲司『教育コミュニティにおける援助活動のシステムとスタイル：学生相談の現場から』沢崎俊之他 (編)「学校臨床そして生きる場への援助」pp.87-112、日本評論社、2002年 (教師への支援) 石隈利紀・家近早苗・飯田順子 2014 学校教育と心理教育的援助サービスの創造 学文社 (学校における諸問題と、親の支援と心理教育) 岡田弘『保護者とのつき合いはなぜ必要か』国分康孝他(監)「保護者との対応」図書文化社、2003年</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 上記の目標 1～3 を達成できること。</p> <p>○評定の方法 レジュメによる報告(査読論文：レジュメの本数は概ね 2 本程度。授業時に指示します)と発表 70% 授業での発表 (初回に指示します) と授業参加 30%。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> * 各課題に対し臨床心理士という専門家としての視野を広げるためにも、近年の研究状況を把握していることは必要不可欠です。したがって、文献検索作業を徹底してください。 * 批評・討論の力を養うためにも、積極的に文献研究を行ってください。 * 各課題で添付する研究論文のコピーは、返却しません。 * 授業内容は、受講者の理解と興味関心に沿って変更されることがありますのでご承知おきください。 		
13. オフィスアワー	追って連絡いたします。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1～2 テーマ	学校臨床心理学とは何か		
【学習の目標】	学校臨床心理学とは何か。なぜ学校臨床心理学が学校という環境に必要となったのか、その経路を理解する。		
【学習の内容】	学校臨床心理学と教育学、発達心理学、教育心理学との関連から、学校臨床心理学の理論を理解する。		
【キーワード】	学校臨床心理学・発達・教育		
【学習の課題】	日本の学校現場の現状を踏まえて、学校臨床心理学の諸問題と理論について考える。		
【学習する上での留意点】	教科書第 1 章を読んで予習をしておいてください。 学校臨床心理学の理論と実践について、各自でテーマを選び、発表の準備を進めてください。		
3.テーマ	学校臨床心理学の展開		
【学習の目標】	学校という生活環境を理解し、学校における心理教育的援助サービスの在り方を解明する手がかりを得る。		
【学習の内容】	学校臨床心理学と学校心理学の合流を目指す、心理教育的援助の現状を把握する。		
【キーワード】	学校臨床心理学・学校心理学・生徒指導・教育相談・特別支援教育・教師へのコンサルテーション		
【学習の課題】	学校臨床心理学の展開について、諸問題を理解し、考えられる今後の方向性を考察すること。		
【学習する上での留意点】	教科書第 2 章第 3 章を読んで予習をしておいてください。 各自、問題意識をもって各自テーマを設定し文献検索して下さい。最近発表された研究論文をもとに、テーマに関する問題・方法・結果・考察を読み解き、レジュメを作成して提出するほか、授業内で発表する準備をしてください。		
4-5.テーマ	学校臨床心理学の実際：三段階の心理教育的援助サービス		
【学習の目標】	学校臨床心理学の実践について現状を把握し、その実践にあたって、諸問題の解決について考える。		

<p>【学習の内容】 学校臨床の実践について理解を深める。どのような支援ができるかについて考える。</p> <p>【キーワード】 三段階の心理教育的援助サービス、</p> <p>【学習の課題】 学校現場における心理臨床家による支援について、その実態と問題点を把握し、効果的な対応方法について近年の先行研究を分析しながら考察する。</p> <p>【学習する上での留意点】 教科書第3章第9章第10章を読んで予習をしておいてください。各自、問題意識をもって各自テーマを設定し文献検索して下さい。最近発表された研究論文をもとに、テーマに関する問題・方法・結果・考察を読み解き、レジュメを作成して提出するほか、授業内で発表する準備をしてください。</p>	
6-7.テーマ	学校臨床心理学の実際：発達障害・特別支援教育
<p>【学習の目標】 学校臨床心理学の実践について現状を把握し、その実践にあたって、諸問題の解決について考える。</p> <p>【学習の内容】 学校臨床の実践について理解を深める。発達障害の理解と支援の在り方について考える。</p> <p>【キーワード】 発達障害 特別支援教育 合理的配慮</p> <p>【学習の課題】 学校現場における心理臨床家による支援について、その実態と問題点を把握し、効果的な対応方法について近年の先行研究を分析しながら考察する。</p> <p>【学習する上での留意点】 教科書22章・23章を読んで予習しておいてください。各自、問題意識をもって各自テーマを設定し文献検索して下さい。最近発表された研究論文をもとに、テーマに関する問題・方法・結果・考察を読み解き、レジュメを作成して提出するほか、授業内で発表する準備をしてください。</p>	
8-9. テーマ	教育現場の現実：いじめ 非行
<p>【学習の目標】 学校臨床心理学の実践について現状を把握し、その実践にあたって、諸問題の解決について考える。</p> <p>【学習の内容】 学校臨床の実践について理解を深める。いじめ、暴力、非行等の問題について実態を把握し、その支援の在り方について考える。</p> <p>【キーワード】 いじめ非行 ストレス障害 スクールソーシャルワーカー</p> <p>【学習の課題】 学校現場における心理臨床家による支援について、その実態と問題点を把握し、効果的な対応方法について近年の先行研究を分析しながら考察する。</p> <p>【学習する上での留意点】 教科書20章・21章を読んで予習しておいてください。各自、問題意識をもって各自テーマを設定し文献検索して下さい。最近発表された研究論文をもとに、テーマに関する問題・方法・結果・考察を読み解き、レジュメを作成して提出するほか、授業内で発表する準備をしてください。</p>	
10-11.テーマ	教育現場の現実：教師への支援
<p>【学習の目標】 教育現場の現実を直視する。</p> <p>【学習の内容】 教師の苦悩、ストレスについて理解を深め、その対応と支援について考える。</p> <p>【キーワード】 バーンアウト（燃え尽き症候群）・ストレスマネジメント・ストレスコーピング</p> <p>【学習の課題】 近年教師の質の低下を指摘する保護者の声を良く耳にする。しかし、日本の社会は着実に複雑化し、学校環境もまた同様に変容してきている。その様な中、学校に対する保護者の期待は多大であり、教師のストレスに関する研究は重要である。現状を理解し、支援の在り方について考察すること。</p> <p>【学習する上での留意点】 教科書4章・5章・16章を読んで予習しておいてください。最近発表された研究論文をもとに、テーマに関する問題・方法・結果・考察を読み解き、レジュメを作成して提出するほか、授業内で発表する準備をしてください。</p>	
12-13.テーマ	不登校
<p>【学習の目標】 不登校の理解と援助について理解する。</p> <p>【学習の内容】 子どもの危機を乗り越える為に学校臨床心理士としてできる対応・支援について考える。不登校とひきこもりの実態について把握し、支援の在り方について考える。</p> <p>【キーワード】 不登校 ひきこもり</p> <p>【学習の課題】 子どもの学校生活における危機を乗り越える為に、学校においてどのような対応・支援が行われているか、先行研究をもとに最近の傾向をまとめなさい。</p> <p>【学習する上での留意点】 教科書19章を読んで予習しておいてください。最近発表された研究論文をもとに、テーマに関する問題・方法・結果・考察を読み解き、レジュメを作成して提出するほか、授業内で発表する準備をしてください。</p>	
14. テーマ	学校臨床の実際
<p>【学習の目標】 21世紀の日本の現状とスクールカウンセリングの実際を理解する。</p> <p>【学習の内容】 スクールカウンセリングの実際として、専門職としての倫理観、予防的対応としての教育等について考える。</p> <p>【キーワード】 プライバシー・コンサルテーション・インフォームドコンセント</p> <p>【学習の課題】 教科書の第17章18章を読んで予習をしておいてください。現状を踏まえて、スクールカウンセリングを実施していく上で問題点を把握し、その改善に関する先行研究及び実践活動の結果から見られる要因を指摘しなさい。</p> <p>【学習する上での留意点】 これまでの学びを振り返り、学校臨床心理の在り方について考察を深めてください。</p>	
15. テーマ	チーム学校における学校臨床の実際
<p>【学習の目標】 21世紀の学校臨床の実際について、今後の在り方を考える。</p> <p>【学習の内容】 心理臨床家と多職種連携、協働の在り方を理解する。また、今後の学校臨床の在り方を考察する。</p> <p>【キーワード】 ライフコース・協働（多職種連携）</p> <p>【学習の課題】 教科書の第24-27章を読んで予習をしておいてください。多職種連携と協働の在り方について、教師、保護者、地域、外部機関との連携について理解する。アメリカにおける実践を理解し、日本の現状と比較検討する。現状の問題点を指摘し、改善すべき点を考える。</p> <p>【学習する上での留意点】 これまでの学びを振り返り、学校臨床心理の在り方について考察を深めてください。</p>	